地域連携推進会議 議事録

事業所名　：スターハウス沼津

開催日時　：令和 8 年 8 月 26 日（水） 13 時 30 分～15 時 00 分

開催場所　：スターハウス沼津　1F リビング

開催回数　：令和 8 年度　第 1 回

出席者

・利用者 1 名（N.N.様）
・利用者家族　0 名（やむを得ない理由により欠席）
・地域住民の代表者（自治会長・民生委員等） 0 名（やむを得ない理由により欠席）
・障害福祉に関する知見を有する者（相談支援専門員等） 1 名（F 相談支援事業所　A.K.様）
・市町村担当者（障害福祉課等） 1 名（沼津市障がい福祉課　A.M.様）
・その他（沼津市役所インターン生） 4 名（M.A.様、S.N.様、Y.K.様、I.Y.様）
・事業所（法人）職員　4 名（管理者・サービス管理責任者等）

議事

①　開会宣言・全参加者自己紹介・事業所のサービス概要と地域連携の紹介

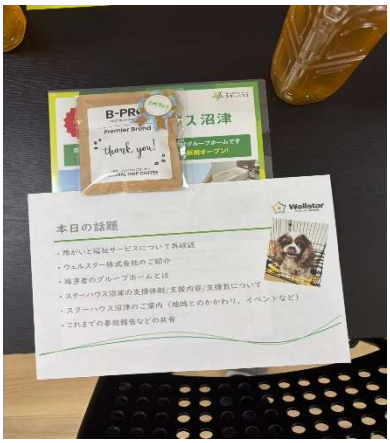
・定刻にて開会した。

・参加者の所属・氏名を紹介した。

・ウェルスター株式会社の概要及び同社における支援内容について説明した。

・スターハウス沼津における支援を説明した。





②　地域連携推進会議の趣旨説明

・利用者と地域との関係づくりや、地域の方への施設及び利用者に関する理解の促進等を目的としている。当事業所も地域の一員であることを意識しながら、地域の皆様と連携し合う関係をつくることが大切であると考えており、地域連携推進会議でもその点を意識した内容としている。
・補足として、障害の種類・障害者数・障害福祉サービス・グループホームについて簡単な説明を行った。

③　事業所の運営状況報告

・当社及び当事業所の概要について説明した。

・世話人の配置人数、勤務時間及び業務内容について説明した。

・入居者数について報告した。

・委員会活動及び各会議体について案内した。

・消防訓練の実施予定日について報告した。





④　苦情・事故・不適合報告

【事故報告】（全件についてヒヤリハット報告書を作成）

・服薬関係（渡し忘れ、飲み残し、服薬時間）のうち2件について沼津市へ報告した。

・湯煎食品の日付誤りが発生した。

・鍵の管理に関する事案が発生した。

【苦情】

・タバコのにおい及び喫煙所での話し声について、利用者への注意喚起及び喫煙スペースの見直し等の対応を行った。

・駐車スペースの停め方について、送迎車をはじめ関係機関へ協力を依頼するとともに、一時停車にも注意を払っている。

⑤　意見交換・質疑応答

（市役所職員様より）

・利用者とのコミュニケーション及び職員同士のコミュニケーションはとれているか。虐待に関する通報を受けて確認を行う中で、コミュニケーションエラーが根底にあるケースも見られるが、その点を含めてどうか、との質問があった。

→利用者と職員は、顔を合わせた際に挨拶を行い、食事の時間を利用して会話をしている。職員同士については、管理者とサービス管理責任者の勤務時間を調整し、世話人の業務が落ち着く時間帯に話を聞く時間を設けるよう工夫している。職員間ではグループラインも活用している。

・タバコや話し声に関する苦情は、地域との日頃の関わりや関係構築に起因する部分が大きいと考えられる、との意見があった。

（相談支援専門員様より）

・金銭管理及び通院同行の現状について聞きたい、との質問があった。

→金銭管理については数名の利用者に対応しており、ボランティアの範囲で行いながら、将来的には自己管理（自立）を前提として考えている。通院同行については、現地集合・現地解散等により対応しており、対応可能な方には一人での受診もお願いしている。

（インターン生より）

・日中に支援が必要になった場合は、どのような対応を行うのか、との質問があった。

→主に体調を崩された方が対象となるため、管理者やサービス管理責任者が声掛けを行い、必要に応じて医療機関の受診を検討している。



※出席者全員に一言ずつ発言の機会を設けた。

---

⑥ 事業所見学

・事業所内の見学を実施した（内覧会等で見学済みの出席者は見学前に退席）。

・新築のため居室の清潔さに驚きの声が上がり、浴室やトイレが一般家庭と変わらない点にも驚いた様子が見られた。

---

⑦ 次回開催予定

・次回は令和9年7月頃の開催を予定している。

---

⑧ 閉会

予定時間にて閉会した。

備考

インターン生からの感想

・話の構成や内容がわかりやすく、利用者の生の声も聞けてよかった。

・親戚にグループホームの利用者がいる。職員と一緒にアイスを食べたことを喜んでいたと聞き、このホームのイベントや手作りのお食事を良いと感じた。クリスマスにはどのようなことを行うのか気になった。

・日常の支援にとどまらず、利用者が楽しんで生活できるための工夫（イベント等）に対する職員の熱意が伝わった。

・「グループホーム」という言葉は聞いたことがあったが、どのような場所か知らなかったため、説明がわかりやすかった。食事提供へのこだわりや楽しさに力を入れている点が素敵だと感じた（栄養科専攻）。



※開所から半年ほどであり、取り上げられる事例が少ないため、当事業所の取り組みについて説明の時間を多めに設けた。